

11. 植村直己氏

グリーンランドで日本人としては最大の有名人である登山家であり冒険家でもあった植村直己氏についてお話ししましょう。

「植村直己物語」(1988)主演西田敏行、監督佐藤純弥の映画がありましたから、ご覧になった方もおいでかと思います。

植村氏の略歴は兵庫県豊岡市で生まれ(1941)昭和16年太平洋戦争が始まった年です。

明治大卒業後は世界中の高峰の単独登攀に挑戦、他の登山隊は潤沢な資金と完全装備で挑戦するのに対して、アルバイトで稼いだ僅かな資金で、しかも単独で挑戦するという精神力と体力の限界に挑戦するということに感動します。

そして世界初の五大陸最高峰単独登頂者の栄誉に輝くのです。それだけですむ冒険家ではありません。次はアマゾン河を筏で6000kmを下る冒険に成功。

更にはグリーンランド北部のエスキモー部落に住み込み、その生活手段を会得した後、1年半をかけて北極圏12000kmの犬ぞり探検に成功、次いで1978年犬ぞりを操って人類史上初の北極点単独行に成功し、極点に見事到達しております。この快挙にイギリス王室から優れた冒険家に贈られる“バラード・イン・スポーツ賞”を授与されました。

そして次はグリーンランドの北部から南部の到達目標点‘ヌナタック峰’を目指しての氷床の中央部を一気に駆け抜ける犬ぞりによる単独行です。人跡未踏、勿論部落や人の痕跡が全くない氷床、しかも北極圏は比較的平坦な氷原ですが、こちらは氷の大山脈の連続ですから山あり谷ありの3000kmを駆け抜けるまさに大冒険です。私は洋上から遙かに聳える氷の山脈を見ただけで怖ろしくなりました。この難関を見事に走破したのです。この快挙にデンマーク政府は最大の祝辞をもって讃え、到達点であった‘ヌスタック峰’を‘ヌスタック・ウエムラ峰’と改名し、その栄誉を永遠のものとしたのです。

1984年2月アラスカのマッキンリー山(6194m)の厳冬単独登攀に挑戦、登頂を見事成し遂げましたが、下山途中連絡が途絶え、直ちに捜索が行われましたが、悪天候に阻まれ、その後も明治大山岳部OBによる捜索が2度行われましたが、キャンプ地跡に残されていた装備の一部を発見し、状況から見て生存率0%と判断され、遺品として持ち帰られました。

1984年2月13日を命日とされ、享年44歳(満43歳没)です。

日本が産んだ希少な大冒険家でした。ご冥福をお祈り申し上げます。